１０/４　創世記 11 章 27-12 章 9 節「あなたは祝福となりなさい」

小池 宏明 牧師

＊アブラムの召命と祝福

テラと息子のアブラムは、その妻サライ、テラの孫ロトと一緒に、カルデアのウルを出る。ウルはメソポタミア文明で有名なチグリス・ユーフラテス川の下流にある。そのウルからカナンに向かうには、いわゆる肥沃な三角地帯を東から西に横断する長旅だ。ところがテラたちは途中のハラン(地名)に住み付いてしまうのだ。テラはそこで死を迎える。元々、テラたち一族が住んでいた、カルデアのウルは、現在のイラクにあり、月の神（ナンナ）を礼拝する中心地であり、月の神殿とジッグラト(高い祭壇)で有名な町である。テラたちが、移動して住み付いたハランも月の神シン（ナンナに相当するセム語名）を礼拝する中心地であった。アブラムは、父テラから遡れば、ノアの息子セムにつながっていたが、テラは偶像礼拝の盛んな町で、他の神々に仕えていた。（ヨシュア記 24:2）しかし、主はアブラムとその家族を再び選び出して、大きな祝福を与えようとされた。主イエス様は「路傍の石ころからでもアブラハムの子孫を起こすことができる」と言った。まさに、その通り、月の神を拝んでいるテラの子どもから神の民、イスラエルを起こして下さった。同じことを、主なる神様は、いつでも実現なさるのだ。

主なる神様は、アブラム自身を祝福して、その子孫が大いなる国民となることを約束して下さった。(創世記 12 章 1－3 節）妻のサライにはまだ子どもが与えられていなかったのに、アブラムの子孫が増え広がる、と言う。そして、驚くべきことに、アブラムを祝福する者にも、神様からの祝福が及び、アブラムを通して、地上のすべての部族が、世界中が祝福される、と言うのだ。アブラムは、主の示された地を詳しくは知らなかったが、主が告げられたとおりに出て行った。

＊神の民への祝福と実現

新約時代、パウロは、ガラテヤ人への手紙 3 章 16 節で、次のように語っている。「**約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。**」この「子孫」という言葉は単数形で，単数の意味にも複数の意味にも用いられる預言的な言葉である。アブラハムの子孫とは、イスラエル民族（ユダヤ人）を指すが、(使 3：25）究極的にはその焦点となるメシヤ、イエス・キリストを指すのだ。その上、救い主イエス・キリストを頭とした教会がアブラハムの子孫であり、信仰によってキリストの恵みにあずかる一人一人キリスト者を指す言葉にもなる。(ガラテヤ 3：7)

全世界を創り出し、治めておられる父なる神様は、アブラムの子孫だけの神ではなくて、私たちを含めた全世界の神であり、全世界の救い主イエス・キリストである。そして何と私たち(キリストの教会)がアブラハムの子孫として、世界中を祝福する者として、立てられている。